

活動ノート



9月13日(土)
アカマツ林整備
(除伐・下草刈り)
12:40~15:30



◆参加者：松雪、礪、林、川上、鎌田、静間、岩尾、松本、山本、富永、米丸、甲斐 計12名

◆内容：秋の訪れを感じさせるさわやかな晴天で、まさに森での作業日和といえる快適な天気でした。A班はアカマツ林入口辺りのA地区での作業。新しい保全計画でアカマツの純林化を目指すことになったので、階段付近でうっそうと日陰を作っていたクロキや、尾根部に残っていたヤマザクラやネジキ、ヤマハゼ等の小径木を除伐しました。この結果A地区では広葉樹の除伐が大いに進み、以前からは見違えるような陽当たりの良い明るいアカマツ林になってきました。あと1日程度の作業で、階段西側の広葉樹巨木を除き、A地区主要部の広葉樹の除伐は終える見通しがつきました。尚、遊歩道脇を中心に繁茂していたササクサ等の草本についても、アカマツ実生を傷つけないよう丁寧に下草刈りを行いました。B班は、これまでシダの繁茂が著しかった、幼木調査用コドラート付近から南東側E・F地

区での草刈りや小木の除伐を行いました。この付近は、最近草刈りを行っていなかったためか、カマでも切りにくいほど太いシダが一面を覆っていましたが、シダ刈りが進むにつれ松の幼木がしっかりと育っているのを確認することができました。シダ刈りについては尾根側まで終えることができたが、遊歩道の谷側では草や広葉樹の繁茂が著しく、まだまだ作業は続くなと実感した次第です。実質の作業が1時間半程度という短い時間でしたが、けが等も無くほぼ終えることができました。

【ふりかえりより】

・ササクサの繁茂が凄くて草刈りが大変でした。地掻きはもっと頻度が必要でしょう。(静間)

・見上げると大きなアカマツが青空の中でぐんぐん伸びているように感じられた。(川上)

9月27日(土)
森のハイキング
9:30~15:30

◆参加者：松本、松雪、林、小川、静間 計5名

◆内容：絶好のハイキング日和となった割には参加者が少なかったのですが、却って観察には好都合でした。まずコースを相談して、中央展望台経由山頂、その後南東に下って子供広場、カブ森を通過してセンターまで戻るということになりました。今日は「生き物ビンゴ」をして貰うので、次はその準備。予めリストアップした出会

えそうな草本、木本、鳥、昆虫を参考に、自分が見つかる25種を選んで貰います。それを5×5=25枠のビンゴカードに記入することで、自分のビンゴカードの出来上がり。センターを出発して少し行ったところで、「自然の音を聞く」というネイチャーゲーム。3分間目をつぶってどの方向からどんな音が聞こえたかをお互いに話し合いました。同じ音を聞いているようで、意外と人によって受け取り方が違うのを愉しみました。ビンゴカードがあると、普段だとあっという間に過ぎて行ってしまう散策路も、何倍もの時間がかかります。ジョロウグモの網があちこちに見られましたが、カマキリやらツクツクボウシが引っかかって焦っているところを観察できました。秋の花、さまざまな実、ひつつきむしの草などを探しながらのんびり進み、中央展望台下の草原では沢山のバタにも遭遇しました。ここで景色を楽しみながら小休止の後、稜線を目指して本格的に登山開始。



今度は樹木の観察を中心に、落ちているドングリなどの実や下層植生も気にしながら進むことになって、やはり倍くらいの時間がかかってしまいました。稜線に出たところでは、オケラの花が迎えてくれました。ここからはアカガシ、スダジイ、コナラ、アカマツ、ウリハダカエデの大树が優勢していて、タムシバやアカシデなども見られました。結局山頂に着いた時は1時をかなり回っていました。昼食が終わった時は2時になっていたのでは、帰路はキャンプ場へ近道して帰ることに予定変更。このコースでは溪谷を通るので、シダなど湿地を好む植物を観察しました。コース変更で見られなくなった生物が出てきて、ピンゴカードが完成できなかった人が続出でした。何とか15時過ぎには帰着、振り返りをして解散しました。

【ふりかえりより】

- ・素晴らしい天候に恵まれ、沢山の生き物に会うことが出来ました。楽しいハイクでした。(林)
- ・知らない生き物ばかりでしたが、これから少しずつ親しんでいきたいと思います。(松本)

10月5日(日) カブ森勉強会 9:30~14:30



◆参加者：吉田、雪丸、丸山、岩尾、松雪、静間、林、鎌田、川上、首藤、新地、榊、中嶋、富永、柴

戸、村上、小川 計 17名

◆内容：鎌田代表がカブ森の目標について、静間さんが森会が今までカブ森で行ってきた作業や活動について、柴戸さんが過去の勉強会で本日のテーマとかわかることの説明をしました。須田先生から、二次林とは多くは人の手がはいった森であること。カブ森が落葉樹二次林の森をめざすならば、高木から草本までの管理が必要なことを伺いました。その後、現地見学、ワークショップと充実した勉強会となりました。詳細は特集「カブ森勉強会」(p6~7)参照

【ふりかえりより】

- ・今後の方向性と何を行うべきかが見えてきてよかった。(中嶋)
- ・高木低木について、知らないことが多かったのもっと勉強しなければと思いました。(首藤)

10月19日(日) 外部との交流 (北九州市山田緑地) 8:15~17:00



◆参加者：鎌田、富永、林、榊、岩尾、森、新地、山本、首藤、雪丸、丸山、吉田(鳥ボランティア)加藤、時川、岳 計 15名

◆内容：今日は山田緑地で自然解説などのボランティア活動を20年にわたって行っている「山田グリーンネット」をお尋ねしました。始めた当時は調べる・守る・伝えるの3班に分かれて活動

をしていたそうです。現在は全員で管理・広報・調査・補助をしており、活動は毎週日曜日。第一日曜日は自主研修、第二日曜日はバードウォッチング、第三日曜日は、管理業務、第四日曜日は、自然観察会を行っているそうです。山田緑地は1940年弾薬庫を造るために接収されて以来、1995年(山田緑地オープン)まで人の出入りが制限されてきたことにより自然がそのまま残っていました。面積40ha、山全体は照葉樹の二次林で昔は集落があり庭に植えていた園芸種も残っています。山の植物は780種(草本類500種、シダ類70種その他210種)野鳥130種。ボランティア活動の課題としては、①持続的な活動をする難しさ(特に若い世代は来たいときに来られるような活動が求められている)②ベテランが多くなると新規の人が入りづらくなる。(これに対して下部組織づくりを視野に入れている。)③新メンバーの確保④若い世代は会の活動との方針のずれがある。などです。園内は、利用区域、保全区域・保護区域に分かれています。オープン当初から管理に当たり制約が多く落ち葉を拾うのもダメ、虫を捕るのもダメで進入禁止エリアも多くあります。いろいろなお話を聞き、課題や問題点をディスカッションしお昼は、快晴の中、野外のテーブルベンチで食べました。午後はミツバチプロジェクトの蜜の採取を見学して、採れたてのハチミツをいただきました。その後は、トンボ池の展望所まで説明を聞きながら案内していただき事務所まで帰り、ご挨拶をして山田緑地を後にしました。

【ふりかえりより】

- ・今回は初めてミツバチの巣を見たり、ハチミツをそのまま食べたりすることができてとても貴重な体験になりました。また油山とはちがう生き物や植物も見れてよかったです。(丸山)
- ・初めて山田緑地に行き、みつばちプロジェクトに参加しニホンミツバチの採蜜見学や自然観察路を案内してもらい楽しい一日でした。(富永)

11月8日(土)

カブ森

下草刈りと落ち葉掻き

9:30~14:15



◆参加者: 榎、川上、松下、川内、富永 計5名

◆内容: 本日は、カブ森A地区での下草刈りと落ち葉掻きの予定でしたが、参加者が少なかったため、橋から見て谷になっている所から右側飼育小屋前の通路までに絞っての作業をすることにしました。作業は、各人2m巾で通路側から草刈しました。その後、倒木の横たわっている所から上部をメインに落ち葉掻き(地掻き)をして、28日予定の柏陵高校の生徒さんが作業していただく見本になることを心がけての作業をしました。午前中に斜面上部での作業を終わりました。昼食中に雨が降りそうな様子になってきたので、30分切り上げて作業を再開することに。

残りの斜面下の方を草刈りして、切り取った草や落ち葉などを飼育小屋下のヤードへ運び入れました。1時間くらいしたら雨が落ちてきたので作業を終了し、何とか本降りになる前に解散することが出来ました。

【ふりかえりより】

- ・カブ森での草刈りで草の刈り方を学びました。すがすがしい大汗をかきました。(松下)
- ・A地区の狭い範囲だったが、参加者の皆さんが湿度の高い中、大汗をかきながら頑張ったので、周囲との草の高さに差が出てスッキリして良かった。(榎)

11月30日(日)

活動説明会「かんたん炭焼き体験」

9:15~15:30



◆参加者: 中嶋、鎌田、林、川上、川内、静間、榎、国広家2、吉田 計10名

◆内容: 今日は19名の一般参加者を迎え、活動説明会を行いました。鎌田代表が簡単な森会紹介を行い、その後、ちくしシェアリングネイチャーの会の安部さんの指導でネイチャーゲーム(以降NG)「はじめまして」を実施。次々と相手を変えながらカードに書かれた質問をし、参加者と森会会員でコミュニケーションをよくしました。これにより、緊張がほぐれ、笑顔で行事のスタートをすることができました。続いてセン

ター脇のクスの並木でNG「カモフラージュ」。自然の中に配置された人工物を探していくゲームです。よく目をこらしていかないと、配置したすべてをみつけることはできません!ここで注意深く自然に目を向けてもらって、アカマツ林ではアカマツの稚樹に注意を向けてもらおうとしたのですが風と雨がいっきに強くなってしまい、今回はスタジイの大木の下で、中嶋さんがアカマツ林の保全について解説しセンターへ引き返しました。センターへ戻ると、安部さんにNG「ノース」と「動物交差点」を実施していただきました。「動物交差点」では、生きものの描かれたカードを背中に付け、まわりの人にヒントをもらいながら、そのカードの生きものが何かを推理していきます。ここでもコミュニケーションが生まれ、楽しく交流することができました。そしてそのままセンターで昼食をとり、センター前のシイタケを狩ってキャンプ場へ移動。午後からの炭焼き体験に移ります。雨が降り続けていたので、炊飯場が手狭になってしまいましたが、缶に木の実を詰めて、針金でしっかり縛り、大火力のかまどに投入!焼いている間は、飾り炭を盛り付ける器に、ツルかごを編んだり、竹を切り割りしました。また持ち寄ったイモを焼いたり、笹茶をつくったりして楽しみました。炭の出来上がりは上々!壊れないようにそっと器に盛り付けて、終了しました。

【ふりかえりより】

- ・ネイチャーゲームの威力を久しぶりに実感しました。(静間)
- ・たくさんの人の参加で楽しく炭体験できてよかった。(川内)